

今月のトピックス

- Ⅰ デング熱の国内感染例が報告されています。
- Ⅰ 腸管出血性大腸菌感染症の報告が多い状況が続いています。

全数把握の対象

【9 月期に報告された全数把握疾患】

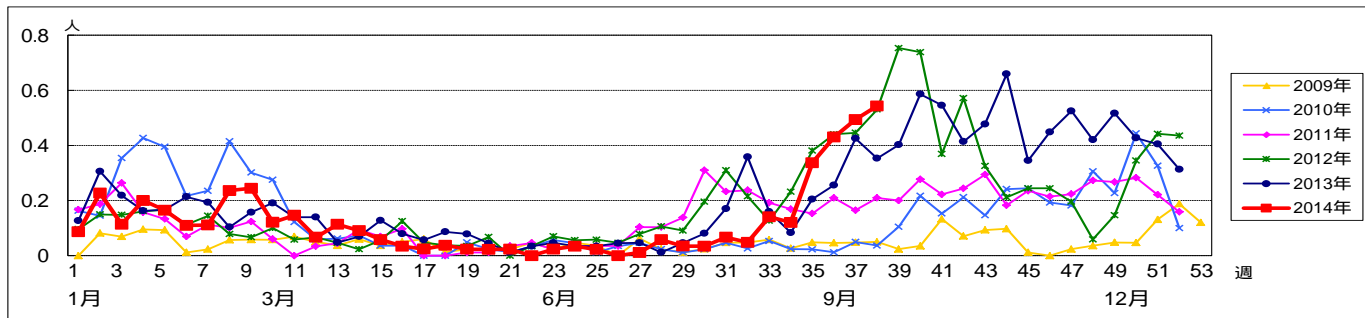
| | | | |
|-------------|------|-------------------------|-----|
| 腸管出血性大腸菌感染症 | 10 件 | 後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む) | 3 件 |
| デング熱 | 6 件 | 侵襲性インフルエンザ菌感染症 | 2 件 |
| レジオネラ症 | 5 件 | 侵襲性肺炎球菌感染症 | 3 件 |
| アメーバ赤痢 | 5 件 | 梅毒 | 2 件 |
| 急性脳炎 | 3 件 | 風しん | 1 件 |

- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**: 計 10 件 (O157VT2 6 件、O157VT1 1 件、O26VT1 2 件、O145VT2 1 件) の報告がありました。肉は十分に加熱 (中心部まで 75℃ で 1 分間以上加熱) し、食品はよく洗い新鮮な材料を使うなど予防対策が重要です。家庭内での 2 次感染予防では、手洗いをしっかりと行い、下痢症状がある人は専用のタオルを使用し、トイレは常に清潔に掃除して、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにするのが大切です。
- 2 **デング熱**: 6 件 (海外感染例 1 件、国内感染例 5 件) の報告がありました。1999 年から 2014 年 7 月まで感染症発生動向調査で報告された症例はすべて海外での感染例でしたが、2014 年 8 月に都内公園で感染したと推定される症例が報告されて以来、9 月 22 日までに計 142 名の国内発生例が報告されています。横浜市内の医療機関からも、9 月 22 日までの時点で 7 件の国内発生例の届出 (うち 1 件は市外在住) があり、すべての症例で代々木公園への訪問歴がありました。[横浜市内の蚊の調査](#)では、デング熱のウイルスは認められていません。デング熱は通常 3~7 日の潜伏期の後、急激な発熱で発症し、発疹、頭痛、骨関節痛、吐気・嘔吐などの症状が出現します。デング熱の詳細な所見、診断方法や治療法については「[デング熱診療ガイドライン\(第1版\)について\(厚生労働省\)](#)」を参照してください。
- 3 **レジオネラ症**: 肺炎型 4 件、ポンティアック型 1 件の報告がありました。現在感染経路等調査中です。
- 4 **アメーバ赤痢**: 腸管アメーバ症 4 件、腸管及び腸管外アメーバ症 1 件の報告がありました。報告のうち 1 件は国内での経口感染が推定されていますが、他はすべて性的接触による感染が推定されています。
- 5 **急性脳炎**: 3 件の報告 (2 歳 7 ヶ月児、4 ヶ月児、1 ヶ月児) がありました。病原体検索中です。この 3 件の疫学的なつながりは確認されていません。2014 年は、9 月 22 日までに既に 10 件の報告があります。2013 年 5 件、2012 年 8 件、2011 年 7 件と、過去 3 年間と比べてやや報告が多くなっており注意が必要です。
- 6 **後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)**: 無症状病原体保有者 3 件の報告がありました。そのうち 2 件は国内、残る 1 件は海外 (タイ) での同性間性的接触による感染でした。
- 7 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**: 2 件の報告 (60 歳代、90 歳代) がありました。
- 8 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 3 件の報告 (80 歳代、70 歳代、20 歳代) があり、80 歳代と 70 歳代の 2 件は予防接種歴が確認できませんでした。20 歳代の 1 件は生体肝移植者で、予防接種歴が 1 回有りました。
- 9 **梅毒**: 早期顕症梅毒 期 (丘疹性梅毒疹有り。国内での異性間性的接触による感染) が 1 件、晚期顕症梅毒 (神経症状有り。感染経路感染地域等不明) の報告が 1 件ありました。
- 10 **風しん**: 学童の臨床診断例 (予防接種歴 1 回有り) が 1 件ありました。

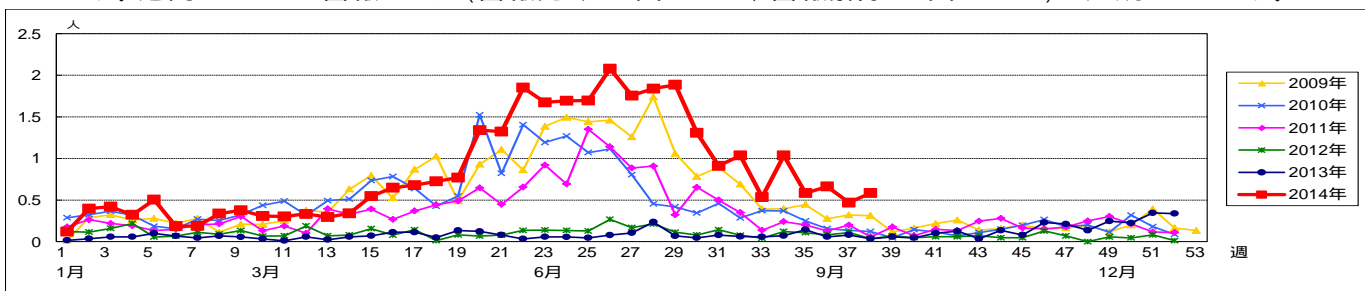
定点把握の対象

| 平成 26 年 週 - 月日対照表 | |
|-------------------|-----------------|
| 第 35 週 | 8 月 25 日 ~ 31 日 |
| 第 36 週 | 9 月 1 日 ~ 7 日 |
| 第 37 週 | 9 月 8 日 ~ 14 日 |
| 第 38 週 | 9 月 15 日 ~ 21 日 |

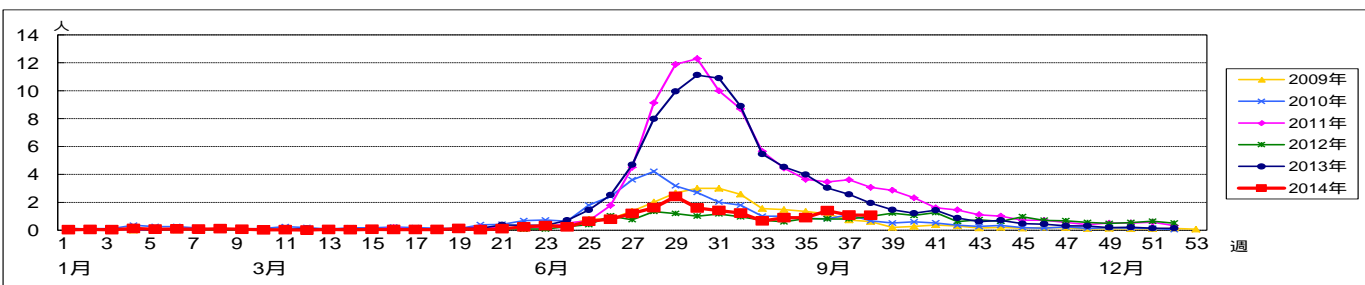
- 1 **RSウイルス感染症**:第33週頃から報告が増加し、第38週は市全体で定点あたり 0.54 となっています。例年これからの時期は報告数が多い状態が続くので注意が必要です。区別では緑区 2.50 で報告が多くなっています。



- 2 **伝染性紅斑**:第26週の市全体で定点あたり 2.08 をピークに徐々に報告数は減少し、第38週 0.59 となっています。港南区 2.33 で警報レベル(警報発令基準値:2.00、警報解除基準値:1.00)が継続しています。



- 3 **手足口病**:第38週は市全体で定点あたり 1.07 となっています。区別では、港南区 3.00 で警報レベル(警報発令基準値:5.00、警報解除基準値:2.00)が継続しています。



- 4 **性感染症**:8月は、性器クラミジア感染症は男性が12件、女性が17件でした。性器ヘルペス感染症は男性が4件、女性が3件です。尖圭コンジローマは男性7件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が20件、女性が0件でした。
- 5 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は第35週 2.25、第36週 0.50、第37週 0.00、第38週 0.00と、第36週以降報告はやや落ち着いてきました。無菌性髄膜炎は第38週に1件報告がありました。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。
- 6 **基幹定点月報**:8月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症4件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>